

北九州マラソン2023について

1 大会概要

- (1) 日時 令和5年2月19日(日)
- (2) 主催 北九州市、(一財)北九州市陸上競技協会
- (3) 種目・参加人数
 マラソン 11,000人
 ペアリレーマラソン 150組300人
 ファンラン 1,000人
- (4) 制限時間 6時間
- (5) コース 北九州市役所前をスタートし、八幡東区東田・戸畑駅前・東港を通過、門司港を折返し、北九州国際会議場前をフィニッシュとするコース。

2 申込結果(2023は令和4年10月1日までの申込状況)

種目 (定員)	2023 (第10回)	2022 (第9回)	2020 (第7回)	2019 (第6回)	2018 (第5回)	2017 (第4回)	2016 (第3回)	2015 (第2回)	2014 (第1回)
マラソン (11,000)	12,654	14,237	22,578	22,041	21,560	21,175	21,721	18,614	17,284
ペアリレー マラソン (150組300)	(261組) 522	(294組) 588	(495組) 990	(478組) 956	(421組) 842	(378組) 756	(345組) 690	(348組) 696	(303組) 606
ファンラン (1,000)	770	—	1,814	1,601	1,760	1,799	1,773	1,964	1,355
計	13,946	14,825	25,382	24,598	24,162	23,730	24,184	21,274	19,245

※北九州マラソン2021(第8回)、2022(第9回)は新型コロナウイルス感染拡大のため中止



3 重点方針《主な取り組み》

【重点方針 1】

2022大会の新型コロナウイルス感染症予防対策を最大限とし、政府が行う感染症予防対策や日本陸上競技連盟のガイダンス等を踏まえ、感染状況に応じた対策を講じる。

《主な取り組み》

- (1) 新型コロナワクチンの接種が可能な方に対する、接種のお願い
- (2) 「ワクチン・検査パッケージ制度」または「全員検査」の実施を検討
- (3) 大会前後の健康管理
- (4) マスクの着用、検温、手指消毒の徹底
- (5) フィジカルディスタンスの確保
- (6) ゴミ（使用したマスク等）の持ち帰りの徹底
- (7) 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）の利用推奨
- (8) 沿道応援はマスク着用のうえ拍手での応援要請 など

【重点方針 2】

SDGs未来都市として、持続可能な大会運営につながる取り組みを進めるとともに、SDGsに関する情報発信を行う。

《主な取り組み》

- (1) 紙コップの削減またはリサイクル化
 - ・ ランナーへのマイカップの持参の推奨
 - ・ エイドステーションで使用する紙コップの削減
- (2) ゴミ拾いやゴミ分別の啓発の実施
- (3) 余った給食の有効活用
 - ・ フードバンクなどへの提供 など

【重点方針 3】

「走る人」「支える人」「応援する人」みんなが楽しめる、10周年にふさわしい大会となるよう、大会の盛り上げを図る。

《主な取り組み》

- (1) 著名なゲストやランナーの招待
 - ・ 芸能人や、北九州に何らかの「ゆかり」がある人を招待
- (2) 関連イベントの実施
 - ・ 大会前日、当日のイベントの実施
 - ・ ゲストによるトークショー
 - ・ 過去大会の写真展の実施 など

大会名誉アドバイザー・大会ゲストについて

【第10回大会記念スペシャルゲスト】 つるの剛士



1975年5月生、福岡県北九州市出身。

1997年「ウルトラマンダイナ」のアスカ隊員役を熱演。2008年に“羞恥心”を結成しリーダーとして活躍、人気を博す一方で、ミュージシャンとしての活動もスタート。2009年カバーアルバム「つるのうた」がオリコン1位を記録。続いてセカンドカバーアルバム「つるのおと」をリリースするなど、精力的に音楽活動を行っている。趣味は、将棋・釣り・楽器・サーフィン・バイクなど幅広く、多彩な才能を発揮、多方面で活躍中。プライベートでは二男三女のよき父親である。

【大会名誉アドバイザー】 君原 健二



1941年3月生、北九州市出身。北九州市スポーツ大使。1968年メキシコ五輪男子マラソン銀メダリスト。

1959年福岡県立戸畑中央高校卒業後、八幡製鐵に入社し1991年まで勤務。東京、メキシコ、ミュンヘンと五輪3大会連続出場。32歳で競技の第一線を退いたが、これまでに70回以上のマラソン大会に出場し、途中棄権はない。優勝者が50年後に招待される2016年のボストンマラソンに出場し、見事に完走を果たした。

現役引退後は、自己の競技生活やエピソードをテーマに、全国各地での講演活動を続けている。

【大会ゲスト】 増田 明美



1964年1月生、千葉県いすみ市出身。

成田高校在学中、長距離種目で次々に日本記録を樹立。

1984年のロス五輪に出場。1992年に引退するまでの13年間に日本最高記録12回、世界最高記録2回更新という記録を残す。2001年から10年間、文部科学省中央教育審議会委員を務める。全国高等学校体育連盟理事、日本陸上競技連盟評議員、日本障がい者スポーツ協会評議員、笹川スポーツ財団理事。スポーツジャーナリスト・大阪芸術大学教授。

【大会ゲスト・ゲストランナー】 渋井 陽子



所属：三井住友海上女子陸上競技部・コーチ

栃木県・那須塩原市出身

【主な成績】

2001年 大阪国際女子マラソン 優勝（当時初マラソン世界最高記録）

2004年 ベルリンマラソン 優勝（当時日本最高記録）

2008年 北京オリンピック女子マラソン日本代表

2009年 大阪国際女子マラソン 優勝

ベルリン世界陸上女子マラソン日本代表

2016年 全日本実業団女子駅伝 20年連続出場達成

2020年より女子陸上競技部コーチとして後輩指導に専念。全国各地のランニングや陸上教室などを通じて社会貢献活動中。

【ゲストランナー】 園田 隼



所属：黒崎播磨陸上競技部OB

熊本県西原村出身

【主な成績】

2016年 福岡国際マラソン 4位

2018年 別府大分毎日マラソン 2位（自己最高記録 2時間09分34秒）

世界ハーフマラソン出場（日本代表）

ジャカルタ・アジア大会（日本代表）4位

福岡国際マラソン 5位

2019年 マラソン・グランド・チャンピオンシップ出場

2012年に黒崎播磨株式会社に入社後、九州実業団毎日駅伝2区山登りで3年連続区間賞（2013-15）。ニューイヤー駅伝ではエース区間4区を6度走り、チームの大黒柱として活躍。2013年からマラソンに挑戦し、2018年別府大分毎日マラソンで2時間09分34秒（2位）をマーク。日本代表として出場したジャカルタ・アジア大会では4位と健闘。2019年マラソン・グランド・チャンピオンシップに出場後、現役を引退し、現在は同社で社業に専念中。

【招待選手】 今田 麻里絵



所属：キャノンアスリートクラブ九州

福岡県出身

【主な成績】

2018年 埼玉国際マラソン 4位（日本人トップ）

2019年 第17回アジアマラソン選手権 出場

【北九州マラソン特別応援団長】芋洗坂係長／俳優名：小浦一優



生年月日 1967年12月18日（A型）

出身地 福岡県北九州市・北九州市観光大使

1989年に田口浩正とお笑いコンビ「テンション」を結成し、バラエティ番組などで活躍。ニューヨーク・アポロシアターのアマチュアナイトへ出場経験がある。その後2008年R-1ぐらんぷりで準優勝。得意の歌とダンスをベースに俳優・芸人・ダンサー・振付師・脚本演出家・絵本作家と幅広い分野で活躍している。福岡県北九州市門司港の「二代目 清食堂」のオーナーであり、店主は姉が務めている。北九州市観光大使として、市のPR動画にも出演中。